

三重県図書館協会報 2017年3月24日発行

協会だより No.68

目次

「三重の文学をテーマとした情報発信事業」について.....	1
平成28年度三重の文学をテーマとした情報発信事業のご報告.....	2
平成28年度図書館活性化推進事業のご報告.....	4
研修会のご報告.....	6
トピックス～図書館をめぐる話題から～.....	8
ブックエンド.....	8

編集・発行 三重県図書館協会＝津市一身田上津部田 1234 三重県立図書館内 電話：(059)233-1181

「三重の文学をテーマとした情報発信事業」について

三重県立図書館

三重県立図書館では、協会が公益財団法人岡三加藤文化振興財団の助成を受けて実施する「三重の文学をテーマとした情報発信事業」により、平成27年度から2年続けて事業を実施させていただきました。

当館では、三重県の文学を広く紹介する場として文学コーナーを設け、三重ゆかりの文学者や文学作品にまつわる展示などを行ってきましたが、県の財政状況の影響によりその規模も縮小せざるを得ず、特に近年は文学以外のテーマでの展示やトークイベント会場としての利用が中心となっていました。設置から20年余りが経過し、その位置づけも薄らいでいく中でこのコーナーを活性化することが、当館が事業を実施した最大の理由です。

実施初年度であった平成27年度は、当館単独での事業として企画展「三重の文学戦後70年」を開催しました。企画展では、「戦後70年」という機会を捉え、戦後間もない時期の資料や、戦争と関わりがあった文学作品の紹介を行うとともに、戦後活躍した三重ゆかりの文学者も広く紹介しまし

た。また展示期間中には講演会やトークイベントを開催、さらに最後には、企画展の総まとめとして冊子を作成しました。ここには展示の概要や展示品目録といった記録的な内容を収めるとともに、県内外の有識者の方々にアンケートをお願いし、展示ではふれることのできなかった文学者などについてもご紹介をいただくなど、単なる記録集にとどまらない内容としました。

そして実施2年目となった今年度は、市町立図書館でも助成により多様な催しが開催されるということ、前年度とは一転してテーマを絞り、企画展「四日市・菰野と作家たち」を開催しました。展示では、四日市・菰野の地に長く暮らし、活動を続けた作家たちを紹介することに主眼を置き、平成28年が生誕100年・没後45年であった瀬田栄之助、文芸同人誌「海」の主宰も務めた間瀬昇と一見幸次、さらには元菰野町長で文芸同人誌「棧」の編集・発行人であった鶴崎博の4人を中心にとりあげ、著作や原稿などゆかりの品を展示しました。またトークイベントで

は、さる2月7日に急逝された文芸評論家の清水信氏によるご講演をいただくなどし、4人の作家のご家族や友人・知人の方々にもご参加をいただきました。

今回の事業は、公共図書館ならではの資料である郷土資料、さらにその中でも重要な部分を占める文学関係の資料の掘り起こしや整理ができたという点で非常に意義深いものでした。またそれと同時に、三重県には個人の文学館はあるものの、県の文学全体を俯瞰できる県立の文学館がないという現状から、当館の役割の重要性を改めて感じています。今後も他の図書館とともに、継続して事業に取り組み、三重の文学についてより多くの県民に情報を発信できればと考えています。



平成28年度 三重の文学をテーマとした情報 発信事業のご報告

平成28年度の三重の文学をテーマにした情報発信事業では、県立図書館の他3館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

①「はやみねかおるさん トークイベント」を開催 しました

鈴鹿市立図書館 韓みなみ

当館では、平成29年1月29日(日)に三重県ご出身の作家、はやみねかおるさんをお招きしたトークイベントを開催し、県内はもちろん、県外からもたくさんの方にご参加いただきました。

イベント前半「図書館長との対談」では、鈴鹿に関する思い出、三重県で書き続ける理由、制作秘話、児童作家として子ども達に伝えたいことなど、貴重なお話をたくさん聞かせていただきました。特に、謎やトリ

ックの考え方として、ペットボトルを使った細工を披露していただいた時は、大変盛り上がりました。

イベント後半「教えて！はやみね先生！」のコーナーでは、事前に参加者のみなさんからいただいたキャラクターの考え方や、苦手なものとの付き合い方、生まれ変わるとしたら何になりたいかなど、個性豊かな質問に答えていただきました。作家さんが自分の質問に答えてくれるという貴重な機会に、みなさんとても喜んでいらっしゃいました。

サイン会へも多くの方が参加し、はやみねさんと直接話せる時間を堪能されていました。

本イベントは当館にとって初めての試みでしたので、不安もありましたが、多大なるお力添えをいただいたはやみねさんや協力的な参加者のおかげで、成功裏に終わることができました。また、参加者に対して行ったアンケートでは、「イベントが楽しかった」「三重の文学に興味を

持てた」「図書館に興味を持てた」との回答が、いずれも80%を超え、大変にご好評をいただきました。当館では現在、図書館活性化へ向けて様々な取組みをしているところですが、本イベントでは大きな手ごたえを感じることが出来ました。今後も継続して様々な取組みを行っていきたくと考えています。



②講演会「古典にみえる外宮さん」を開催して

伊勢市立伊勢図書館 岡本良子

伊勢市立伊勢図書館では平成28年11月12日(土)に毎年恒例の図書館まつりの一行事として、ふるさと文庫講演会「古典にみえる外宮さん」を開催しました。

伊勢図書館は平成4年10月に伊勢神宮外宮宮域に隣接する現在地に新築移転しました。その際、ふるさと創生事業の交付金を活用して市民の声により郷土資料の収集保存利用に注力する「ふるさと文庫」が設置されました。「ふるさと文庫」では伊勢の歴史に関わりの深い伊勢神宮に関する資料も収集しています。

伊勢神宮外宮は市民から親しみを持って「外宮さん」と呼ばれています。そして、今回「外宮さん」と古典文学を結びつけた講演会を伊勢神宮の図書館である神宮文庫の窪寺恭秀氏を講師にお招きし開催することができました。外宮の名称の由来や御鎮座、日々の祭りについて、日本最古の文献である「古事記」をはじめとする古典のなかから、わかりやすく

解説していただきました。講演後の質疑応答では参加者の皆さんの関心の高さを示すように次々と質問がありました。

また、11月12日(土)～18日(金)の期間、「古典にみえる外宮さん」関連資料展示を行いました。講演会の内容をより深く理解していただけるよう図書館所蔵の資料を展示しました。講演会、関連資料展示を通じて日々の生活に身近な「外宮さん」を知るよい機会となったのではと思います。

伊勢図書館では今後も市民の「ふるさと」に対する興味関心、探究心を刺激するような企画を考えていきたいと思っています。



③「三重の文学展 熊野の文人と訪れた作家たち」について

熊野市立図書館 片受理恵

熊野市立図書館では「三重の文学展 熊野の文人と訪れた作家たち」を開催いたしました。

一般的に昔の熊野とは三重県紀北町錦あたりから和歌山県田辺市あたりまでを言いますが、今回は三重の文学展ということで、熊野市を中心に構成しました。

展示期間は平成28年12月6日

(火)～11日(日)で、日本書紀に始まる熊野市を題材にした文学作品(書籍)コーナーと、熊野を訪れた作家たちの写真や手紙などの展示コーナー、奥熊野の隠れた詩人たちを紹介する3つの展示コーナーを設けました。文学作品は図書館所蔵の資料の貸出も行いました。

12月10日(土)には、みえ熊野学研究会運営委員長の三石学さんと同会員の中田重顕さん、元有線放送アナウンサーの阪本浩子さんの3人によるトークイベントも開催しました。阪本さんの司会で進行し、はじめに三石さんに中上健次・紀親子、乃南アサなど「熊野を訪れた作家たち」のさまざまなエピソードを語っていただき、次に中田さんに「奥熊野の隠れた詩人たち」について語っていただきました。2人の語りの間に阪本さんによる詩や手紙の朗読も交えていただいたことで、より来場者の興味をひくイベントになりました。最後に3人による熊野の文学についてのディスカッションを行い、来場者からの質問にも答えていただきました。来場者へのアンケートでは「作家を身近に感じられてよかった」「もっと聞きたかった」「また開催してほしい」などとても好評で、

有意義なトークイベントになりました。



平成28年度 図書館活性化推進事業のご報告

平成28年度の当協会による図書館活性化推進事業助成では、5館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

①絵本ではじまる素敵な時間

四日市市立図書館 堀田智恵美

子どもの読書活動の推進のため、2つの企画を実施しました。

一つ目は、四日市出身の絵本作家 U'sukeさんの絵本『くろとん』の読み聞かせとトーク、そして「くろとん」を会場で描いていただきました。子どもたちにとっては、郷土作家を身近に感じる事ができ、夢は叶うと信じられた貴重な経験になったと思います。

二つ目は、大友剛さんの「ねこのピート 絵本とマジックと音楽ライブ」。

最初に本格的なマジックでみんなを虜にし、キーボードでリクエスト曲を即興で演奏、子どもたちは大合

唱で応えました。『ねこのピート』の読み聞かせになると、「かなり最高♪」の歌声が一層大きく響きました。

今回は、展示に子どもたちの絵を使ったり、ボランティアさんに運営を手伝っていただいたりと、一緒にイベントを作り上げることを意識しました。

また、チラシには定例で行っている読み聞かせ会の案内を掲載し、図書館のアピールも行いました。

今後もワクワク感満載のイベントを企画して、図書館の活性化に取り組んでいきたいと思えます。



②ユネスコエコパークPR事業 「つながる」図書館、「つなげる」図書館

大台町立図書館 井澤友紀

大台町では、平成28年3月にユネスコエコパークの移行地域として町内全域が拡張登録されました。国際的に評価を受けたことについて、情報収集や情報発信をするのは図書館の使命であると考え、今回の事業を計画しました。

まず関連資料の収集ですが、これは課題が多いです。なぜなら、当館の蔵書にできる平易な資料が少ないからです。郷土資料の整備も兼ねて今後も継続していきます。

次に年間行事です。町内の風景をテーマにした絵画募集。駆除の対象である鹿の角をストラップに加工する工作。これらは一例ですが、児童を中心に企画すると、保護者や地域からの関心が高まります。行事の時は、ブックトークや関連図書を紹介を必ず行います。一見して図書館とは無縁に思える拡張登録は、来館へのきっかけにつながります。また、行事をきっかけに、未知な分野の図書との出会いにつなげることができました。

3月5日には講演会「ユネスコエコパークってなんじゃらほい」を行いました。PR事業の集大成です。たくさんの方に参加をいただきました。



朗読会での職員の皆さん

③出前図書カフェ継続中!

みなみいせ図書室

山本節子・田中由紀子

私たちは、日常の館内業務とともに、町内の3小学校、子育て支援センターや保育所での活動を行っています。ですが、昨年に続き地域の古民家と集会所で毎月開催している出前図書カフェを、昨年の経験を踏まえ、認知症予防を意図したプログラムにバ

ージョンアップしました。お茶と歓談タイムに続き、軽い体操、合唱、続いて本の読み語りと朗読を行います。上田論さんの『不幸な認知症 幸せな認知症』をテキストにした読み語りと解説は、いつも笑いに包まれる楽しいひと時です。

皆さんの短い感想(いわばショートタイムのビブリオバトルでしょうか)をお聞きするのは私たちの喜びです。

昨年度から14カ月毎月開催している当事業の参加者は徐々に増え、両会場合わせて毎月30名以上の参加者から、「ここへ来るのが一番の楽しみ」と言っていただけるのは、私たちの励みになっています。来年度は地域の皆さんと自主事業として続けていこうと思っています。



④ すすたんわくわく広場を開催して

鈴鹿大学短期大学部附属図書館

江藤明美

鈴鹿大学短期大学部附属図書館では、平成28年10月22日・23日の大学祭【鈴大祭2016】にて、短期大学部こども学専攻1年生による「すすたんわくわく広場」を開催しました。

本館と地域の人々との交流を深め、気楽な利用の推進を図ることを目的とした「本のリサイクル広場」(古雑誌等の無料配布イベント)も同時に開催され、来館者数が延べ1000名を超える大盛況のイベントになりました。

22日(土)は、ご来館いただいたお子様と一緒に、ヨーヨーつり、的あてなどのコーナーで遊んだり、絵本の読み聞かせ、缶バッジ作り、学生による劇や楽器遊びなど(すすたんステージ)を行いました。

23日(日)は、折り紙、工作(紙ずもう、ふうせん)、ラミネーターを使ったコースターや液晶ストラップ作り、ぬりえ、大型絵本コーナー、クイズ(すすたんステージ)など、親子連れのみなさんと楽しく過ごしました。

今後とも大学附属図書館という特徴を生かした事業を展開して参りたいと思います。



すすたんステージ (大きなかぶ)

⑤ 学生との協働企画「うどんサミット」

皇學館大学附属図書館 坂本尚泰

皇學館大学附属図書館では、今年活動を開始した学生サークル「ふみくら倶楽部」と協働し、図書館企画「うどんサミット」…うどんも本である」を開催しました。

伊勢の食文化「伊勢うどん」をキーワードに、学生の視点で選書した関連本とともに、昔のうどんの道具なども展示しました。また倉陵祭

(学園祭) 期間中の10月29日には、「伊勢うどん大使」石原壮一郎さん、「つたやうどん店主」青木英雄さんをお招きして、トークイベントを行いました。

今回、地域の方に大学図書館を身近な図書館と認知してもらうための広報活動として、学生の情報拡散力を取り入れました。「ふみくら倶楽部」が開設しているツイッター、フェイスブックへ「うどんサミット」の記事や活動の様子を掲載し、結果2000人以上の方に新たに図書館企画のを知っていただくことができました。

今後も「ふみくら倶楽部」とともに、地域へ向けた企画など実施していきたいと考えています。



研修会の「報告

○図書館職員基礎講座

比較的经验の浅い職員向けの研修である基礎講座を、9月16日に津市の三重県生涯学習センターで開催しました。「効果的な本のディスプレイとポップの作り方」をテーマに、東海学院大学のアンドリュウ・デュアー氏を講師にお招きしました。この研修には、27名のご参加がありました。参加された方の中から、大台町立図書館の稲葉梨紗さんにご報告をいただきました。

図書館職員基礎講座に参加して

大台町立図書館 稲葉梨紗
今回の研修では、図書館がどんな場所であるのかということから、ポップやディスプレイの工夫の仕方などを教えていただきました。

図書館は「場」として改めて評価されています。オンライン検索などで簡単に情報を得ることができま

が、図書館に行かなければ得られないサービスもあります。そこで図書館は、行きたくなるような場所、本を読みたいと感じさせることが必要になってきます。そのためにはディスプレイなどに工夫が必要になってきます。工夫の仕方は様々あります。

- ① あちらこちらの本棚に本に合ったワンポイントの何かを置くことで棚に華やかさを演出し、本棚に視線を集めること
- ② 本の福袋など、表紙が見えない本の貸出を企画すること
- ③ オススメの本棚を作ること

館内巡回の際に棚を見ながら回ると、何が借りられたのか傾向がわかるようになります。

棚を飾るためのポップを書くとき、絵中心でも文字中心でもどちらでもよく、また司書が作るだけでなく、ボランティアや利用者で作らせてみるのもよい、ということでした。講義のあとには、ポップ作りの演

習もありました。参加者がそれぞれ持参した本のポップを作りました。完成したあとには、参加者全員のポップを並べて鑑賞しました。趣向を凝らした十人十色なポップが集まり、今後の参考になりました。

今回のこの研修で学んだことを活かし、たくさんの人々に来たいと思ってもらえる図書館を目指していきたいと思えます。



基礎講座の様子

○図書館職員専門講座

ある程度の経験年数を経た職員向けの研修である専門講座を、1月13日に津市の三重県生涯学習センター

で開催しました。「地域に合った図書館経営を考える」をテーマに、瀬戸内市民図書館もみわ広場の嶋田学氏を講師にお招きしました。この研修には15名のご参加がありました。参加された方の中から、高田短期大学付属図書館の西尾綾さんにご報告をいただきました。

図書館職員専門講座に参加して

高田短期大学付属図書館 西尾綾

私は短期大学の図書館勤務のため公共図書館と状況が異なる場所があります。図書館の活動が「地域(所属する組織)」に「合う」とはどういうことか改めて考えたいと思い、講座に参加させていただきました。

講座では、政策面からみた図書館経営について、嶋田館長がこれまで関わってこられた図書館でのエピソードを交えてお話がありました。

「地域づくり」の手立ては「政策」と言い換えることができ、「地域に合う」ということは、政策課題の解決につながる経営ということだと思います。地域特性を伸ばしたり、必要であればけれども足りなかった事柄に取り組むことで、それが「地域づくり」に

役立つ図書館経営につながるということでした。また、本来のサービス対象である住民全体への情報提供を目指すには、図書館が思想的にも物理的にも積極的に地域社会へ出ていくことが求められるということでした。

お聞きした中で、分類別貸出統計で古くても貸出がある分類からニーズを探る、ボランティアからの思考の調達、利用者の探索行動を予測した配架の工夫等、高田短期大学の図書館でも取り組んでいるものがありました。これらの取り組みも「政策」と照らし合わせて考えることで、客観的でより根拠に基づいたものにする事ができると感じました。政策的視点で図書館活動を考えるきっかけを与えていただき、大変意義のある研修でした。

○視察研修

先進的な取組を行っている図書館を視察し、見識を深める視察研修を、1月27日に実施しました。岐阜県の岐阜市立中央図書館と東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館を視察したこの研修には、24名のご参加をいただきました。参加さ

れた方の中から、川越町あいあいセンター図書室の中村千穂さんにご報告をいただきました。

視察研修に参加して

川越町あいあいセンター図書室

中村千穂

平成29年1月27日、視察研修に参加させていただきました。

岐阜市立中央図書館は、平成27年7月に開館した複合施設「ぎふメディアコスモス」の2階にあります。館内は白と木目を基調とし、背の低い書架がテーマ別に「グローバル」と呼ばれる天井から吊り下げられた傘を中心にゆるやかな曲線状に並んで



専門講座の様子

います。閲覧席は900席以上、3つのテラス、1階にはカフェやコンビニなどもあり、長時間ゆったりと過ごせる、まさに「滞在型」のお手本のような図書館でした。最新の設備もさることながら、様々な利用者サービスの充実にも目を見張りました。利用者参加型の展示や郷土の歴史・産業に関するコーナーの充実。児童・YAサービスにも力を入れている、中高生専用のスペース、談話室、学校連携のための専用室が設けられているなど、もう何から何まで「すごい！」の連続です。1時間強という視察時間が足りないくらいでした。

東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館の1階にある「東海えほんの森」は、以前は倉庫だった場所を改装し、地域の人のため、学生さんが子どもたちと直接触れ合うために作られたそうです。週1回土曜日に附属図書館の職員1名が常駐し、開放しているそうです。小ぢんまりとした室内に2800冊程の絵本・児童図書・子育て関係の本が並んでいました。内装も学生さんや職員さんの手作りが温かく、親子が周囲を気にせず寛いで過ごせる空間でした。

規模も特徴も全く違う2館でしたが、どちらも利用者の立場に立った居心地の良い場所づくりをされていたのが印象に残りました。



岐阜市立中央図書館



東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館

ブックエンド ～図書館をめぐる話題から～

今年度、三重県立図書館と公益社団法人インテリア産業協会が連携して、インテリアをテーマとした図書館連携セミナーを松阪市松阪図書館、桑名市立中央図書館、鳥羽市立図書館、伊賀市上野図書館で開催しました。開催した館のなかから、鳥羽市立図書館の杉田亜佐子さんにご報告をいただきました。

インテリア講座「クロールゼット収納お悩み解決法」を開催して

鳥羽市立図書館 杉田亜佐子

鳥羽市立図書館では、公益社団法人インテリア産業協会と三重県立図書館との連携・協力を得て、平成28年11月2日にインテリア講座を開催しました。

インテリアコーディネータークラブ三重からお2人の講師をお迎えし、クロールゼット収納というテーマでご講演いただきました。

本講演は2部構成で行われ、第1部では「収納の心得」というテーマで、モノをしまう時は7割に収めて予備空間をあけておく、常にクロール

ゼットにある服は一定量を保つことなど収納だけでなくモノを減らすことなどにも触れながらご講演いただきました。

第2部では「具体的な収納術」というテーマで、浅い引き出しは寝かせて収納、深い引き出しは立てて収納、詰めすぎに入れる、Tシャツなどはブックエンドなどで立てて収納など具体的なアドバイスをいただきました。

あつという間の1時間半で、もう少し話を聞きたかったなど感じるほど、とても楽しい講演でした。

講演終了時のアンケートでは、「話を聞いていて頭の中は我が家の片づける場所が浮かんできて面白かったです。楽しく面白い企画でした。」「服のたたみ方など、もう少し具体的に教えていただければいいなと思いました。」など楽しかった、もっと時間をかけて具体的に教えて欲しいといったなどの感想をいただきました。今回、このような素敵な企画に参加させていただきまして本当にありがとうございます。

今後も、市民が聞きたいと思う講座を開催していきたいと考えています。



インテリア講座の様子

ブックエンド



『空はいまぼくらふたりを中心に』

村上しいこ／著
講談社

松阪市松阪図書館
久世愛実

野間児童文芸賞を受賞した『うたうとは小さないのちひろいあげ』の続編となる本作は、前作よりも短歌の腕を上げたうた部の青春物語。前作ではいじめ、本作ではLGBT：現代を象徴する難しい問題を軸にしています。彼らは揺れ動くリアルな心情を三十一音に織り込んでサラリと詠むのです。

「の甲子園」と呼ばれる大会を調べると、たくさんあることに驚きます。短歌甲子園を目標とし、泣き笑い奮闘する姿を応援したくなる1冊です。

長らく三重県内の図書館活動にご支援・ご尽力いただいた皇學館大学文学部教授の高倉一紀様におかれましては、平成29年1月26日(木)にご逝去されました。高倉様は、大学で図書館情報学を教える傍ら、三重県立図書館協議会をはじめとした市町立図書館協議会等の委員や、県内の図書館職員を対象とした研修会の講師を務められる等、多方面にわたり重要な役割を果たしていただきました。ここに心からの感謝とお悔みを申し上げ、会員の皆様と共に慎んで哀悼の意を捧げます。

三重県図書館協会 中川博